

2020年3月期 第3四半期

決算説明資料

2020年2月7日

UTグループ株式会社

証券コード 2146

目次

1 2020年3月期 第3四半期 決算概要

2 通期連結業績予想

3 コミットメント

4 UTグループについて

1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

連結業績ハイライト

半導体・電子部品分野の減少を、自動車関連分野が補ったことで
売上高、営業利益共に横ばい

1Qでの特別損失計上により1株当たり四半期純利益は減少

連結売上高

[百万円]



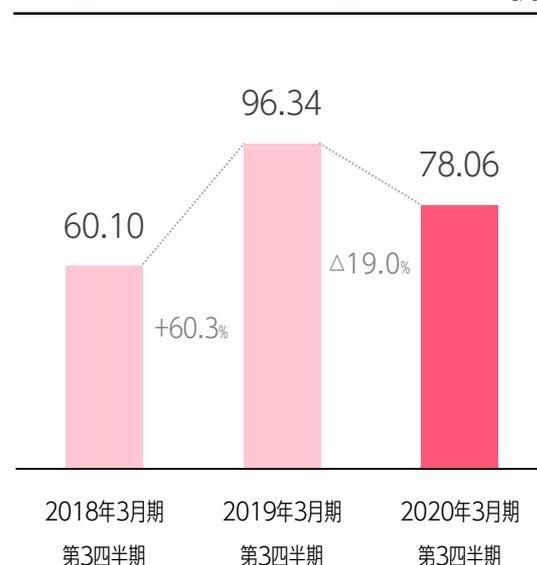
営業利益・営業利益率

[百万円]



1株当たり四半期純利益

[円]



1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

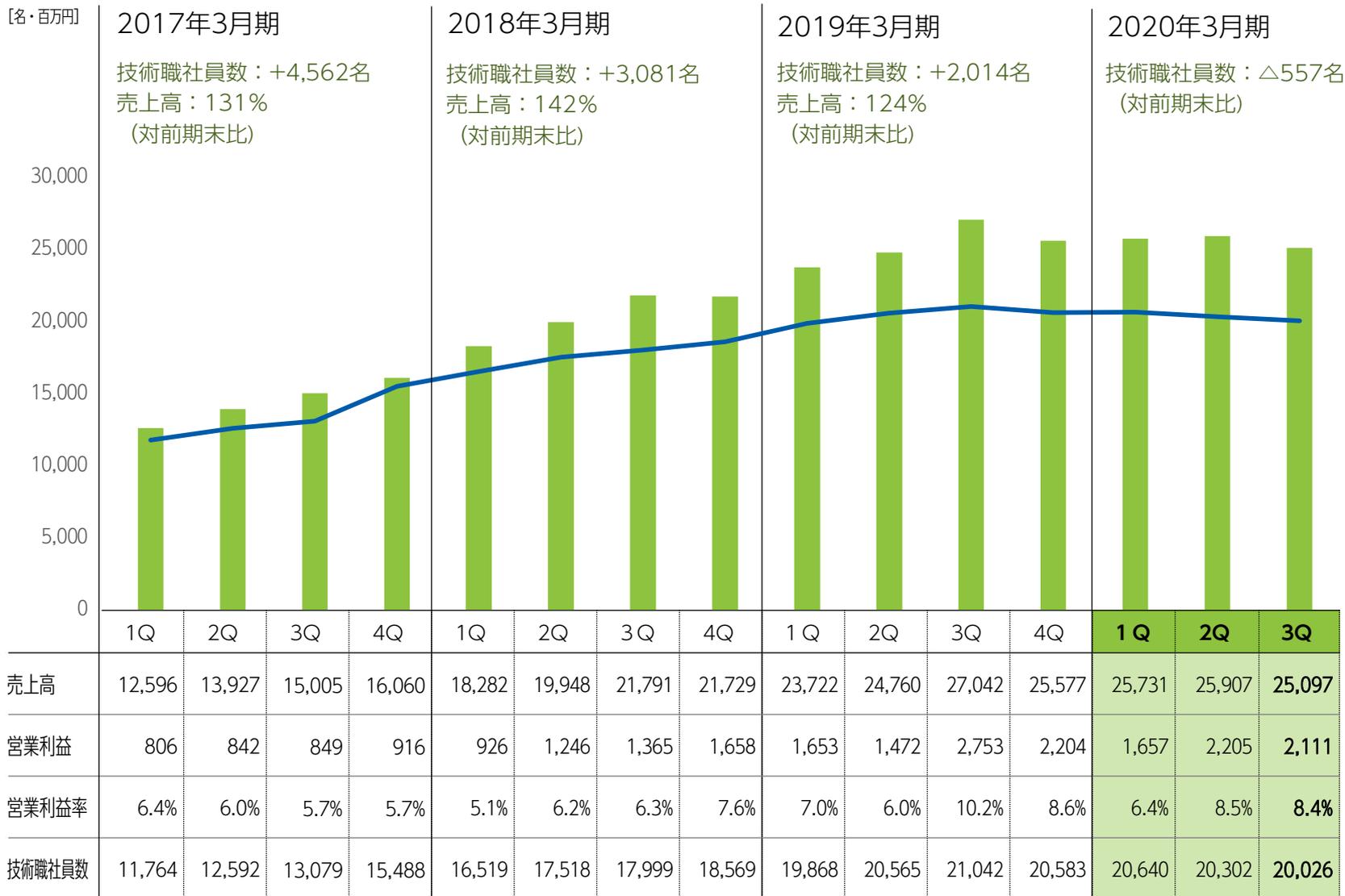
連結損益計算書の概要

[百万円]

	2019年3月期 第3四半期		2020年3月期 第3四半期		前期比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	75,525	100.0%	76,736	100.0%	1,210	1.6%
売上総利益	15,679	20.8%	15,065	19.6%	△614	△3.9%
販売費及び一般管理費	9,799	13.0%	9,090	11.8%	△709	△7.2%
営業利益	5,879	7.8%	5,974	7.8%	94	1.6%
EBITDA	6,320	8.4%	6,393	8.3%	73	1.2%
経常利益	5,921	7.8%	6,014	7.8%	92	1.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,889	5.1%	3,150	4.1%	△738	△19.0%
技術職社員数 [名]	21,042	—	20,026	—	△1,016	△4.8%

1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

四半期単位の売上高・技術職社員数の推移



1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

連結貸借対照表の概要

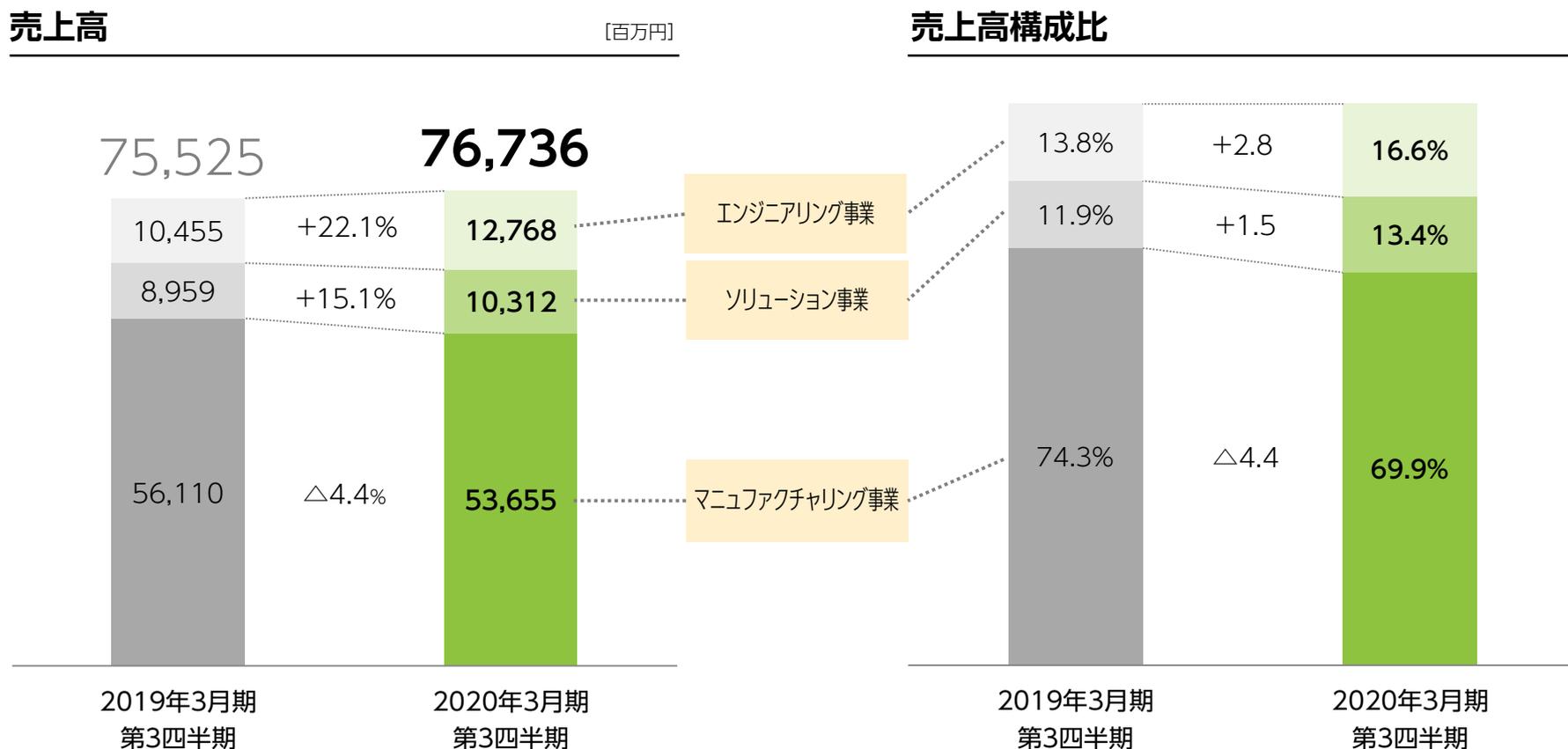
[百万円]

	2019年9月		2019年12月		前四半期末比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
流動資産	24,856	87.4%	32,567	90.4%	7,711	31.0%
現金及び預金	11,275	39.6%	18,836	52.3%	7,561	67.1%
受取手形及び売掛金	12,265	43.1%	11,661	32.4%	△604	△4.9%
固定資産	3,584	12.6%	3,469	9.6%	△114	△3.2%
有形固定資産	301	1.1%	277	0.8%	△24	△8.1%
無形固定資産	1,982	7.0%	1,917	5.3%	△64	△3.3%
のれん	1,254	4.4%	1,176	3.3%	△78	△6.2%
投資その他の資産	1,300	4.6%	1,275	3.5%	△25	△2.0%
総資産	28,440	100.0%	36,037	100.0%	7,596	26.7%
流動負債	13,074	46.0%	15,112	41.9%	2,037	15.6%
短期借入金及び1年内返済予定の長期借入金	1,684	5.9%	2,171	6.0%	487	29.0%
固定負債	3,123	11.0%	7,267	20.2%	4,144	132.7%
長期借入金	2,974	10.5%	7,119	19.8%	4,145	139.4%
純資産	12,242	43.0%	13,657	37.9%	1,414	11.6%
株主資本	12,141	42.7%	13,543	37.6%	1,402	11.5%
負債＋純資産	28,440	100.0%	36,037	100.0%	7,596	26.7%
グロスDELシオ	0.38	—	0.69	—	—	—

セグメント別業績 - 売上高推移・構成比

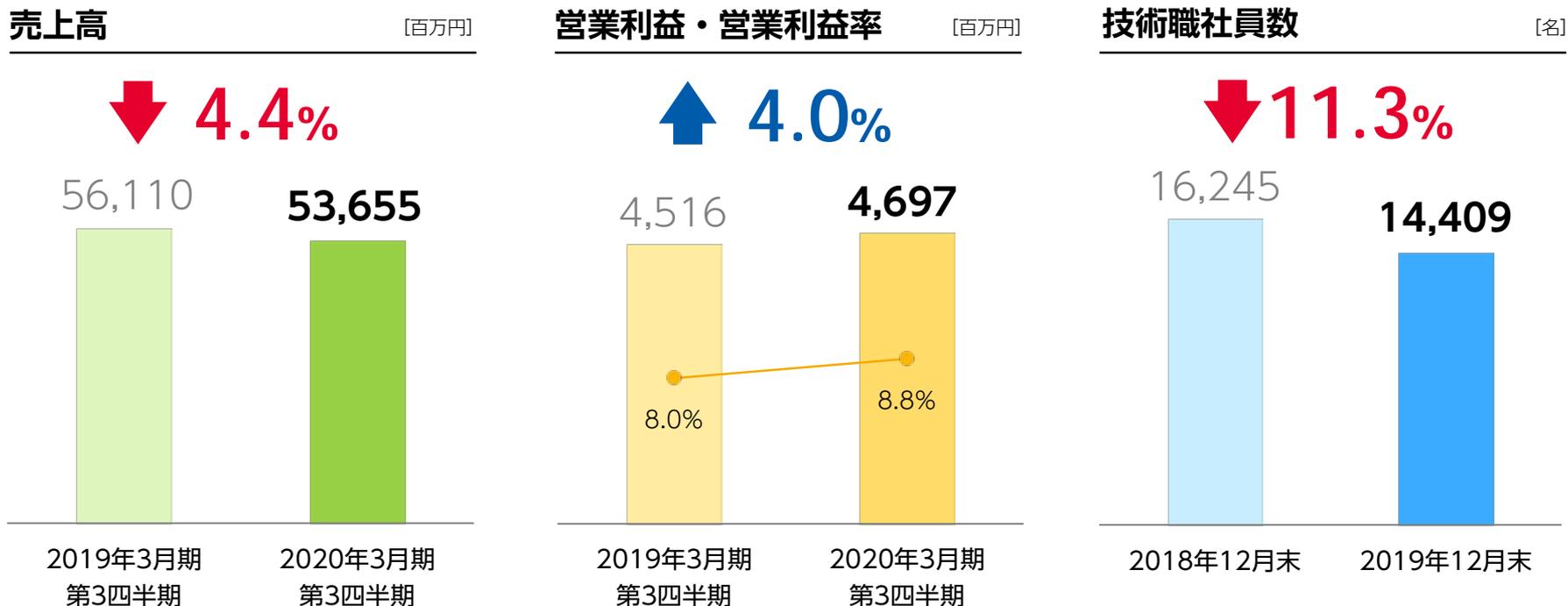
○ マニファクチャリング事業は、半導体・電子部品分野での生産調整が継続したことにより減収

○ ソリューション事業、エンジニアリング事業は顧客ニーズの獲得が進み増収



セグメント別業績 – マニュファクチャリング事業

- 自動車関連分野が増加したものの、半導体・電子部品分野での生産調整が継続したことにより、技術職社員数が減少し、売上高が減少
- 高単価案件の増加、採用活動の効率化により営業利益は増加

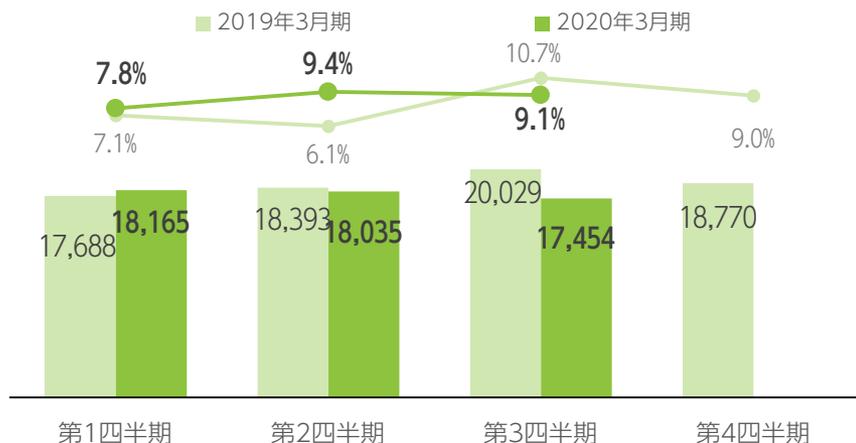


1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

セグメント別業績 – マニュファクチャリング事業

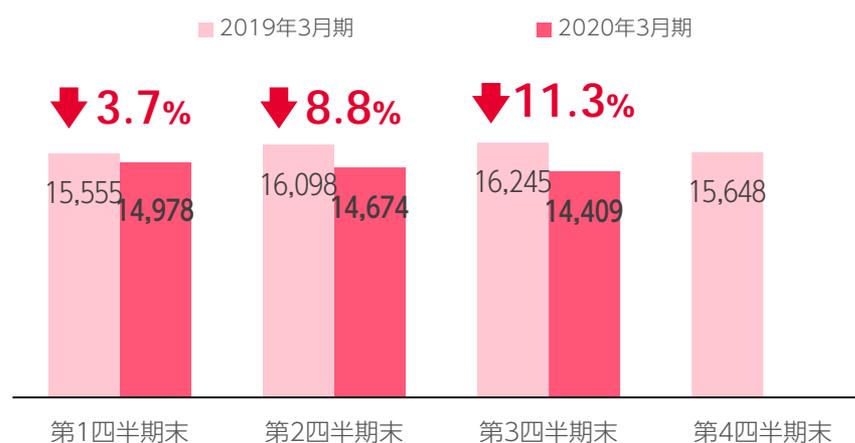
売上高・営業利益率

[百万円]



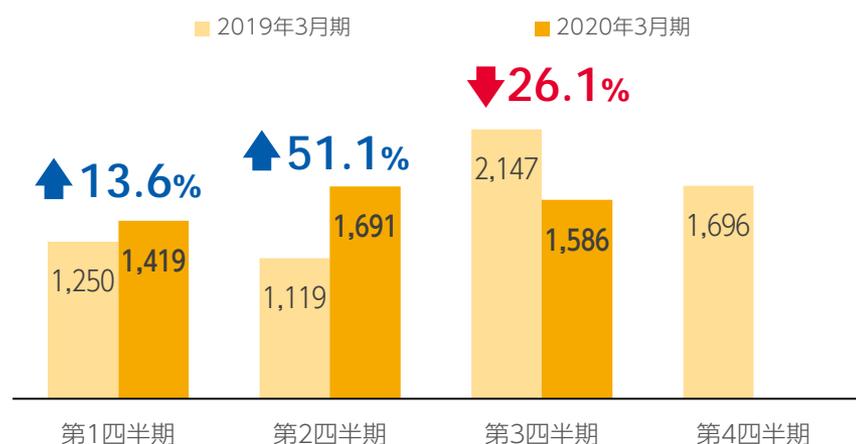
技術職社員数

[名]



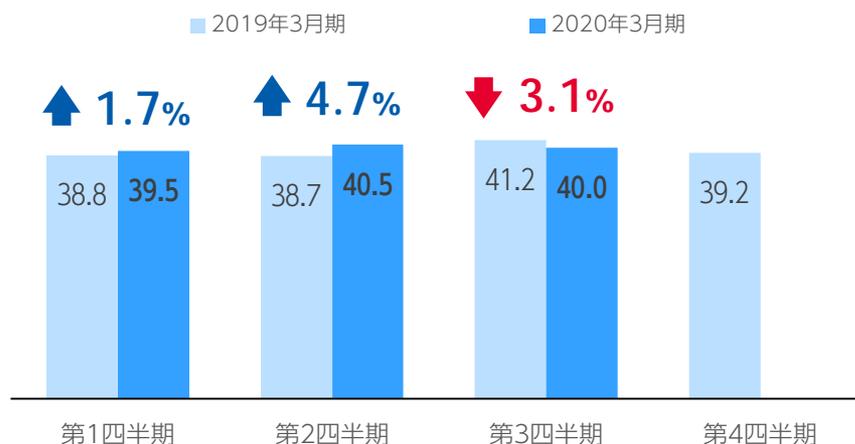
営業利益

[百万円]



一人当たりの平均月間売上高

[万円]



※四半期売上高を期中平均技術職社員数で除したのから1ヶ月の平均売上高を算出

1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

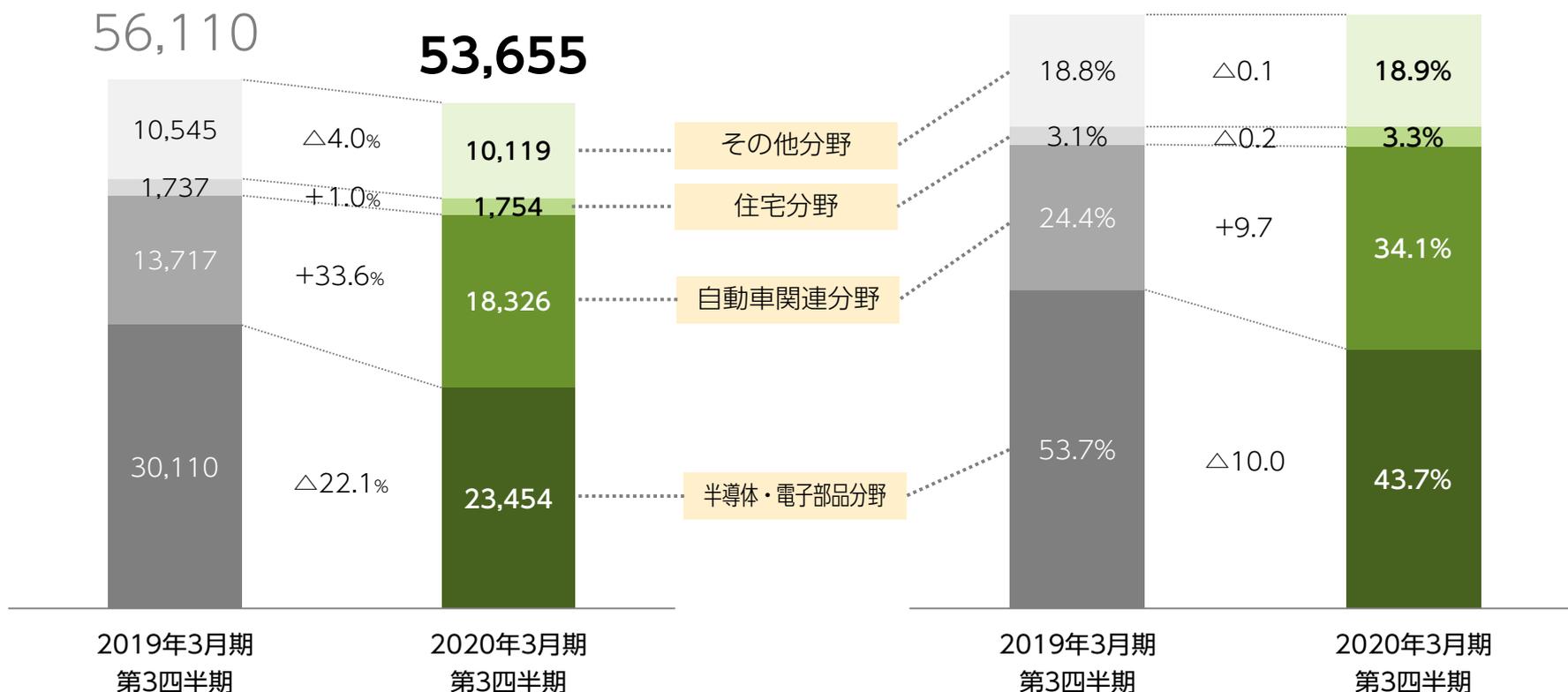
セグメント別業績 – マニュファクチャリング事業 (分野別売上高)

- 半導体・電子部品分野は米中貿易摩擦等の影響を受けて減少
- 自動車関連分野は期間工から派遣社員への切り替え需要により大幅に増加

売上高

[百万円]

売上高構成比

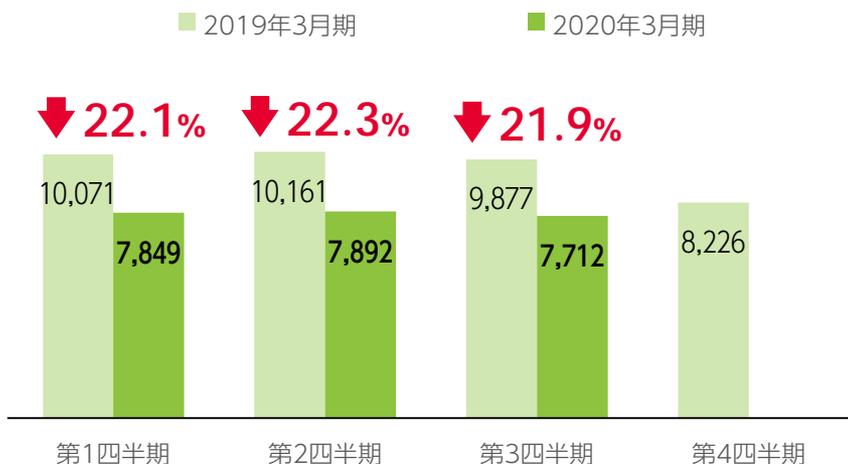


1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

セグメント別業績 – マニュファクチャリング事業 (分野別売上高)

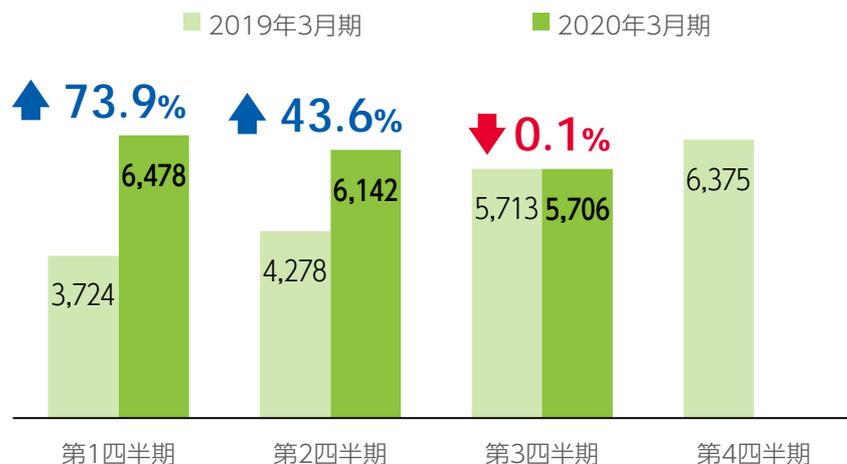
半導体・電子部品分野

[百万円]



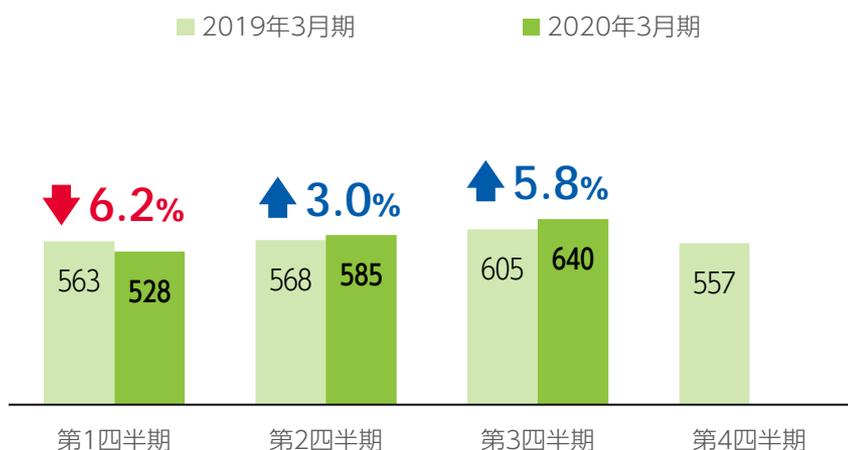
自動車関連分野

[百万円]



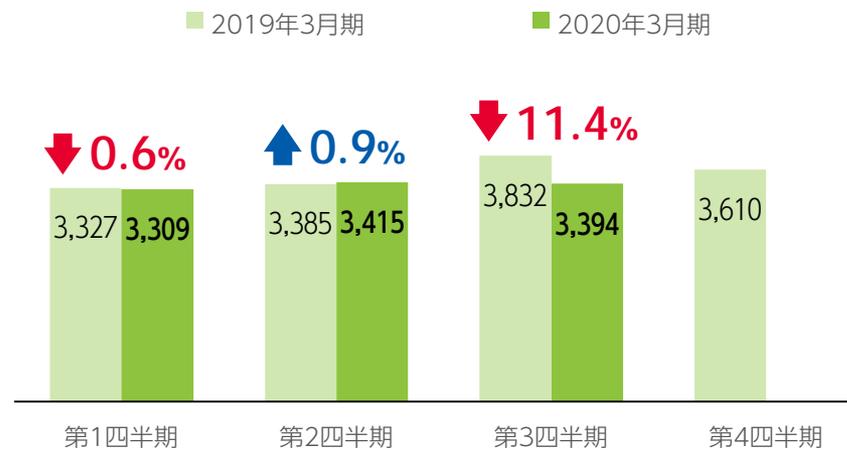
住宅分野

[百万円]



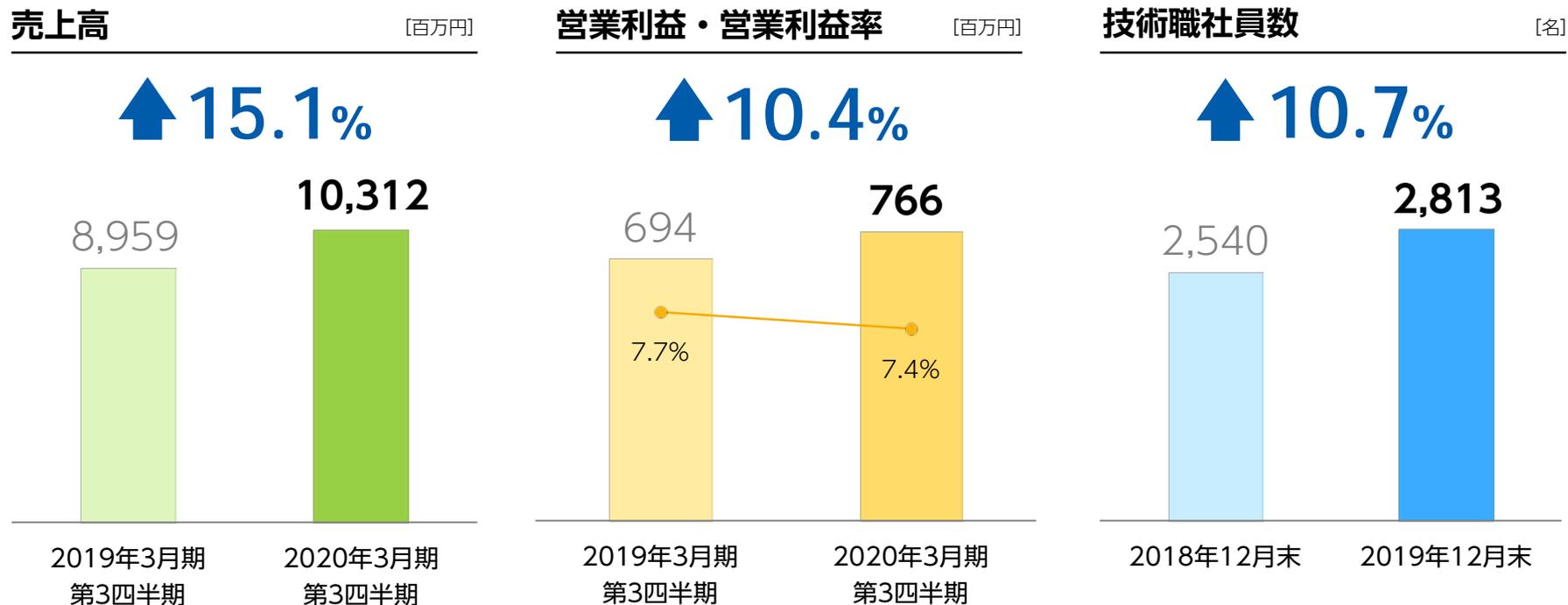
その他分野

[百万円]



セグメント別業績 - ソリューション事業

- 顧客企業からの転籍や、大口の派遣受注の獲得が継続し売上高・社員数が増加
- 米中貿易摩擦等の影響で、請負生産しているEV用バッテリー生産の減少等により営業利益率は低下したものの営業利益は増加

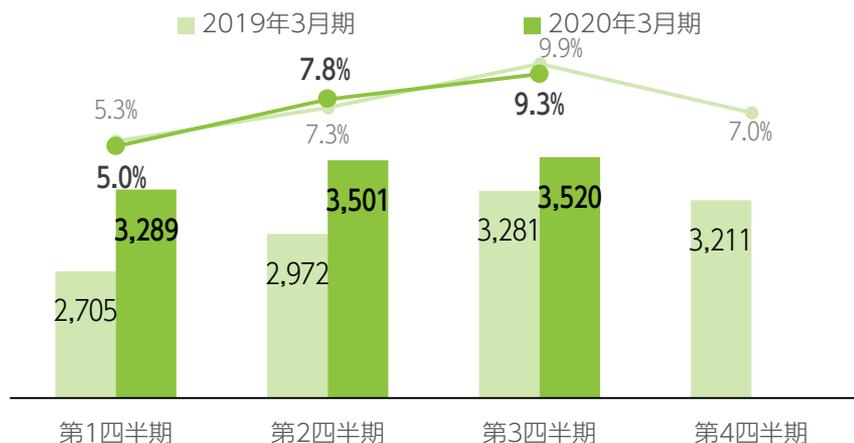


1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

セグメント別業績 - ソリューション事業

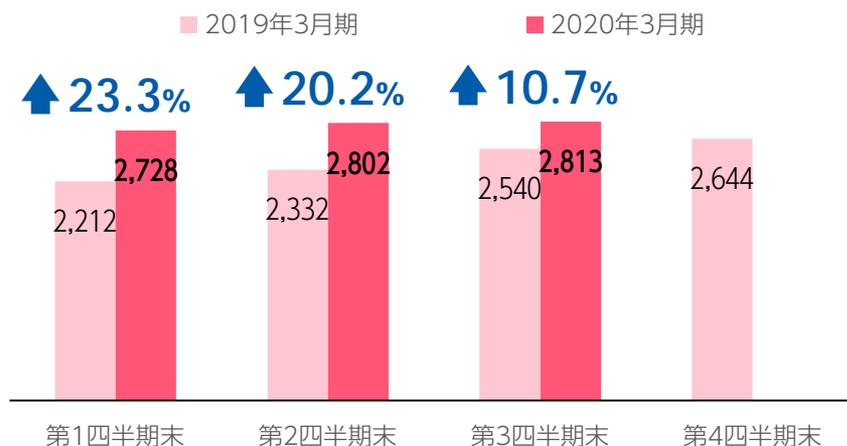
売上高・営業利益率

[百万円]



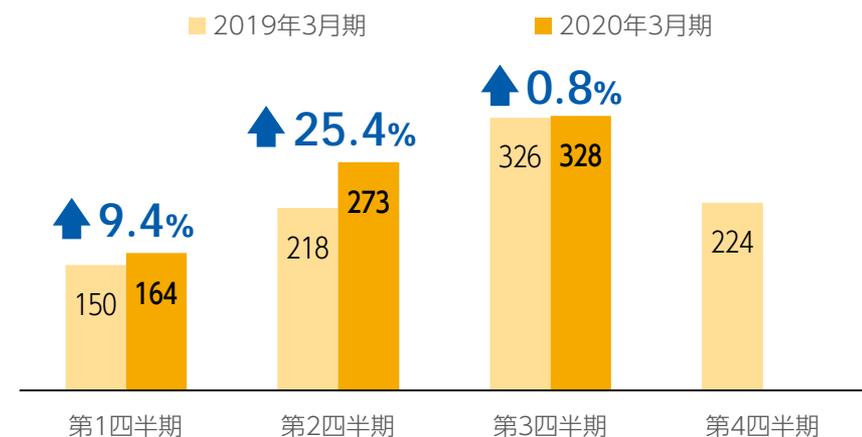
技術職社員数

[名]



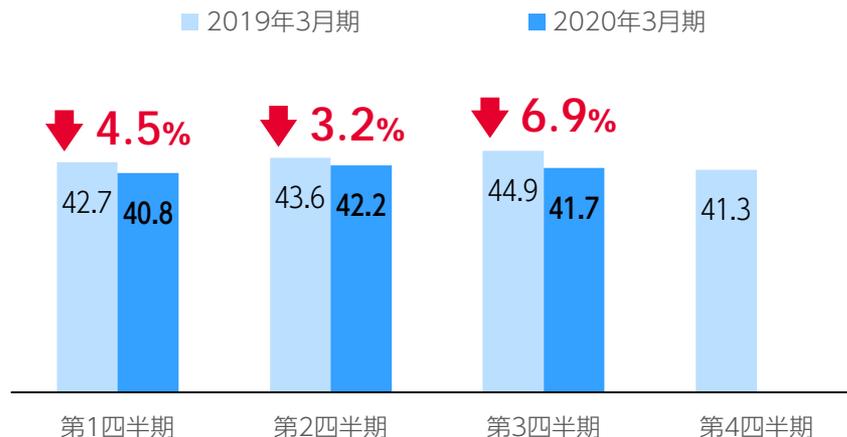
営業利益

[百万円]



一人当たりの平均月間売上高

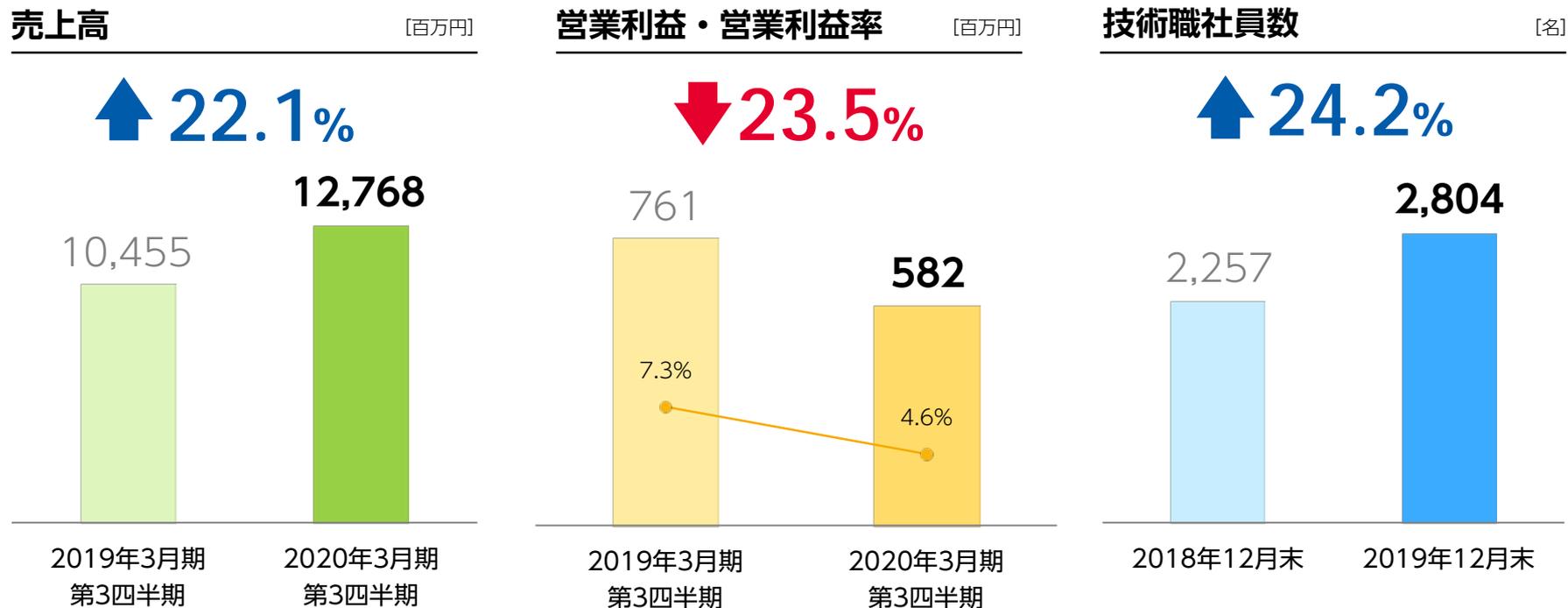
[万円]



※四半期売上高を期中平均技術職社員数で除したのから1ヶ月の平均売上高を算出

セグメント別業績 - エンジニアリング事業

- 新卒採用を中心に技術職社員数が増加したことで売上高が増加
- 1Qに前期比約2倍にあたる900名超の新卒社員が入社した影響で、営業利益率が低下

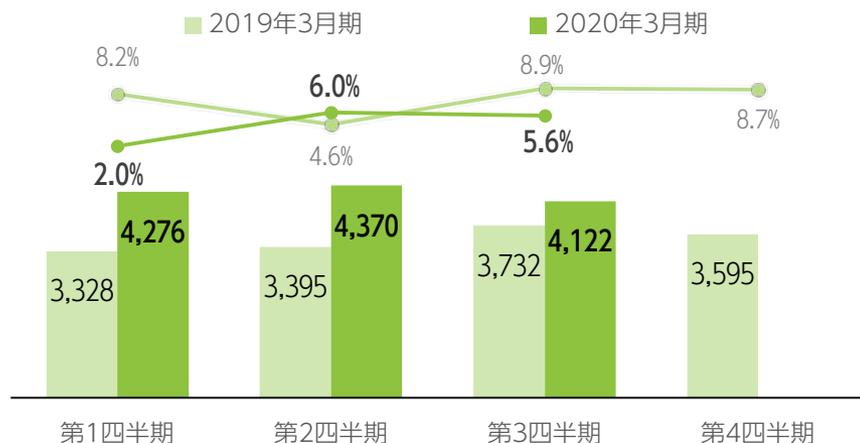


1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

セグメント別業績 - エンジニアリング事業

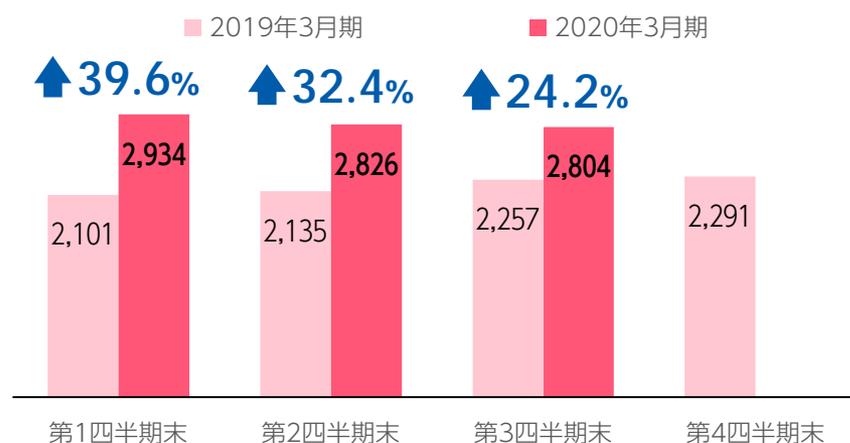
売上高・営業利益率

[百万円]



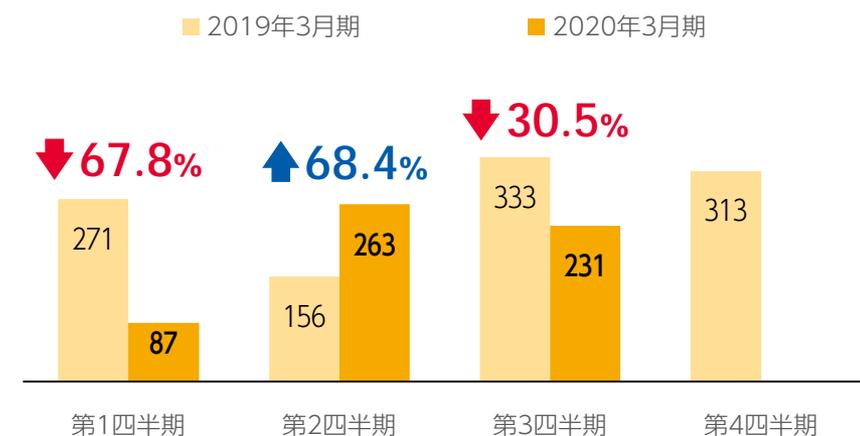
技術職社員数

[名]



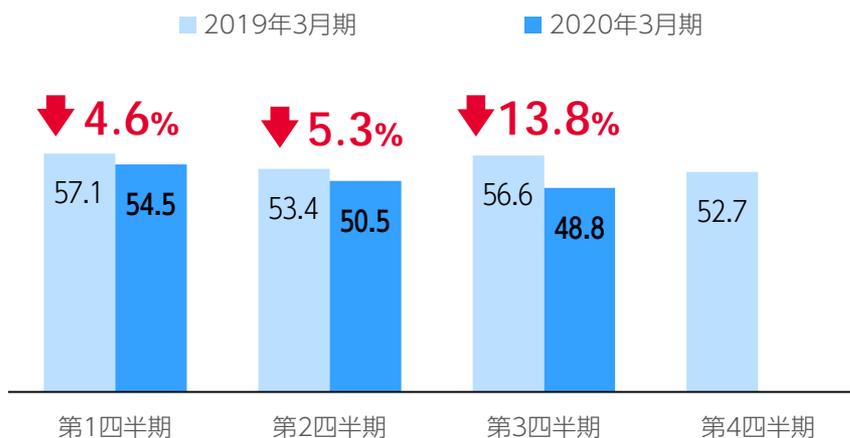
営業利益

[百万円]



一人当たりの平均月間売上高

[万円]



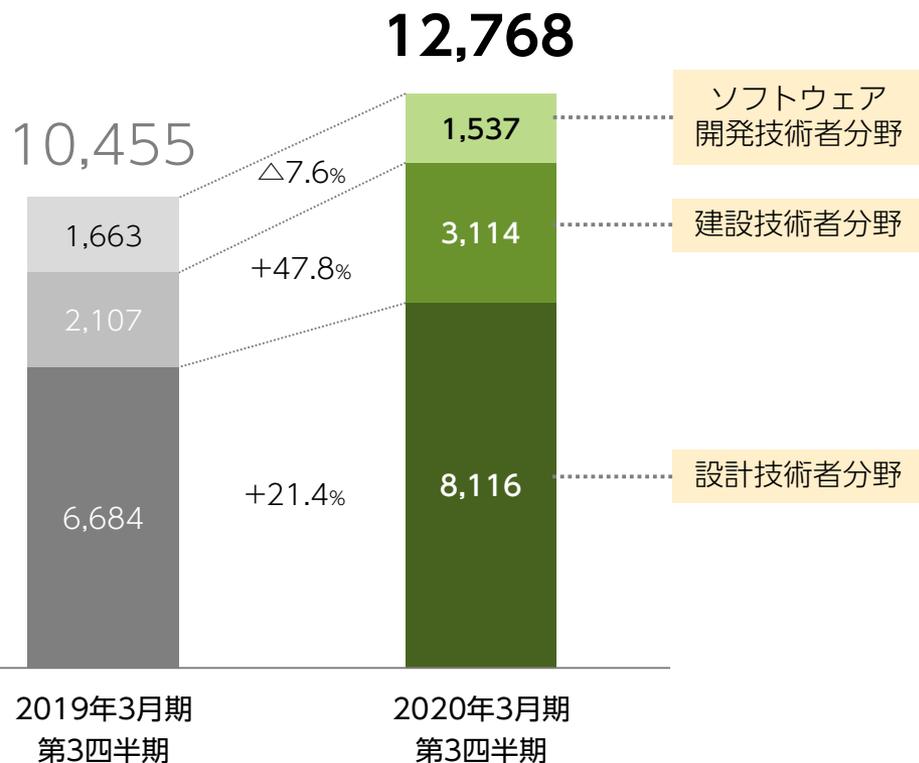
※四半期売上高を期中平均技術職社員数で除したのから1ヶ月の平均売上高を算出

セグメント別業績 - エンジニアリング事業 (分野別売上高)

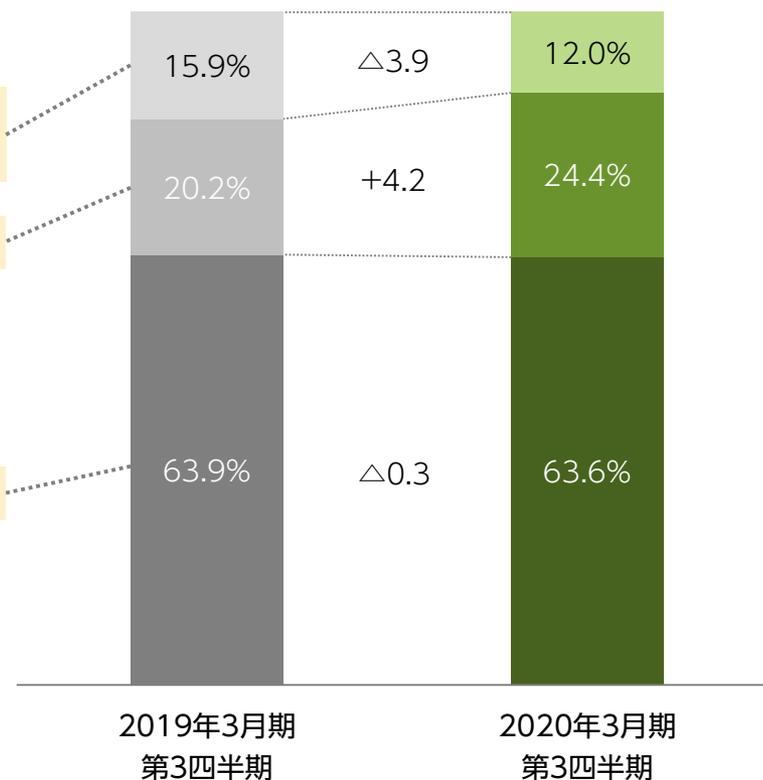
- 設計技術者分野は、通信系顧客への設備保全等が拡大
- 依然として旺盛な建設需要を背景に建設技術者分野が拡大

売上高

[百万円]



売上高構成比

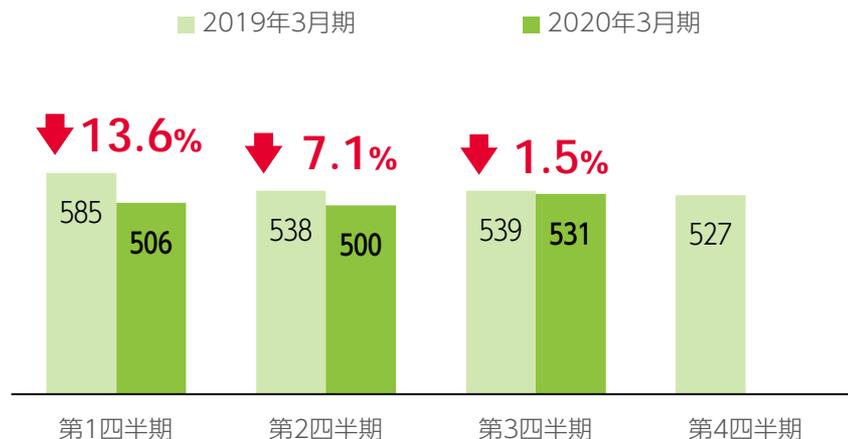


1. 2020年3月期 第3四半期 決算概要

セグメント別業績 - エンジニアリング事業 (分野別売上高)

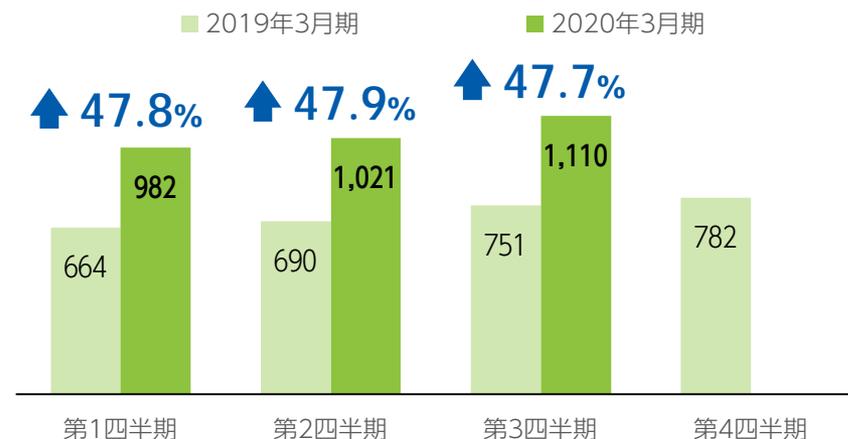
ソフトウェア開発技術者分野

[百万円]



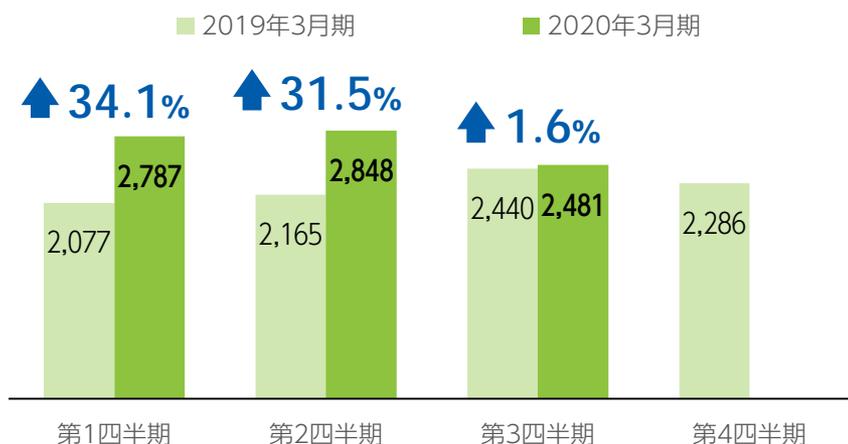
建設技術者分野

[百万円]



設計技術者分野

[百万円]



計画進捗遅れの要因

外部要因

- ・ 米中貿易摩擦等による生産低下からの回復が想定よりも長期化
- ・ 人材需給が緩んだことで、派遣需要、外国人技能実習生需要が低迷

内部要因

- ・ エンジニアリング事業での新卒配属にグループ全体の営業リソースを投入したことにより、マニュファクチャリング事業での営業活動が停滞
- ・ マニュファクチャリング事業での営業リソースが不足し、エリア戦略が進捗せず

2. 通期連結業績予想と来期の見通し

2. 通期連結業績予想と来期の見通し

通期連結業績予想

- 米中貿易摩擦等の影響による生産調整から、半導体・電子部品分野の派遣需要回復が想定よりも遅れたことに加え、自動車関連分野での一時的な派遣需要の落ち込みが想定を上回ったため、業績予想を修正

	2019年3月期		2020年3月期				増減額	増減率
	実績	前期比	前回予想	前期比	今回予想	前期比		
売上高	101,103	23.7%	120,000	18.7%	101,600	0.5%	△18,400	△15.3%
営業利益	8,083	55.5%	10,000	23.7%	7,800	△3.5%	△2,200	△22.0%
経常利益	8,166	56.4%	9,900	21.2%	7,900	△3.3%	△2,000	△20.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,968	40.6%	6,200	24.8%	4,000	△19.5%	△2,200	△35.5%
一株あたり当期純利益 (円)	123.07	35.1%	153.61	24.8%	99.10	△19.5%	△54.51	△35.5%

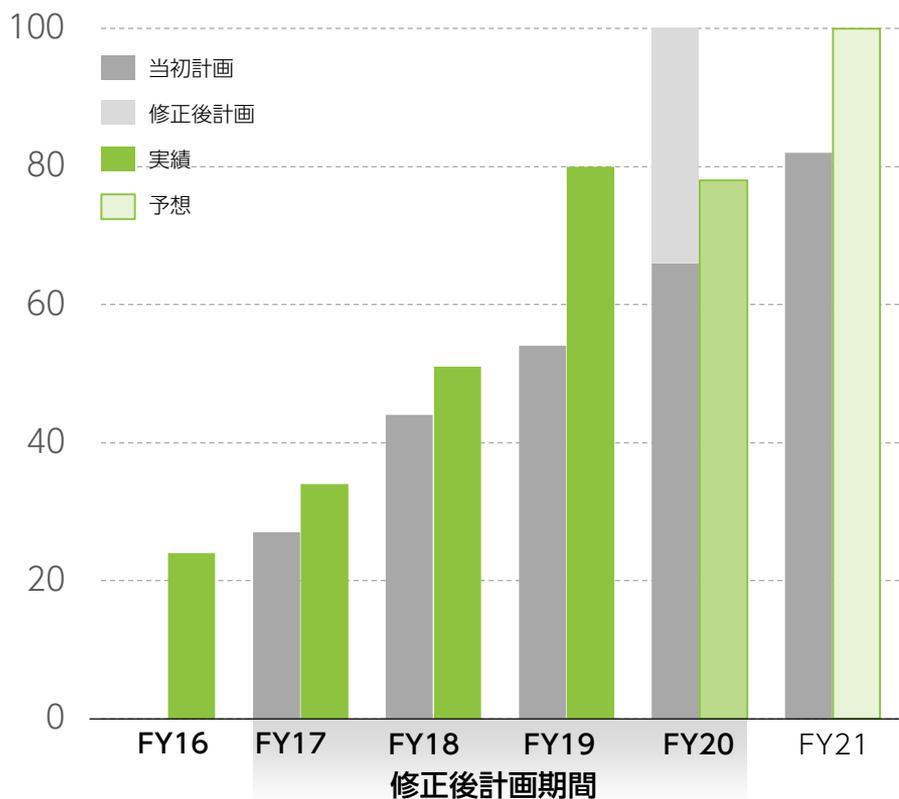
2. 通期連結業績予想と来期の見通し

中期経営計画の進捗

○ 営業利益100億円は2021年3月期で実現

営業利益計画／実績

[億円]



来期の市場環境予測

- ・ 次世代通信規格5G関連など半導体・電子部品分野を中心に人材需要が回復
- ・ 同一労働同一賃金対応による派遣会社の集約が進む

2. 通期連結業績予想と来期の見通し

来期での営業利益100億円達成の蓋然性

来期への体制強化

エンジニアリング事業の体制強化

- ・ 製造業とのリレーションを強化する体制構築
- ・ 需要増が見込まれる半導体関連の設備保全、フィールドエンジニアの安定供給体制を確保
- ・ 引き続き需要が強いIT領域の推進体制を再構築

エリア戦略の拡大はM&A路線に変更

- ・ 同一労働同一賃金対応が困難な中堅派遣会社を中心に再編が加速

外国人技能実習生事業の推進体制構築

- ・ 生産回復に伴う需要を迅速に取り込むため、全国規模の営業・管理基盤を持つUTエイムに集約
- ・ コンプライアンス対応した技能実習生向け管理システムによるサービス開始

セグメント別の見通し

マニュファクチャリング事業

- ・ 回復が予想される派遣需要

4月開始の需要	半導体・電子部品分野	500人
	自動車関連分野	600人
- ・ 中堅派遣会社の売案件が増加

ソリューション事業

- ・ 構造改革需要による、転籍・M&A案件が増加

エンジニアリング事業

- ・ 半導体関連の生産回復で設備保全、フィールドエンジニアの需要が増加

営業利益100億円を新中期経営計画初年度の基盤とする

(新中期経営計画は5月に発表予定)

3. コミットメント

3. コミットメント

コミットメント

EBITDA成長率 30%以上 (中期経営計画の年平均成長率)

総還元性向 30%以上

グロスDEレシオ 1.0以下 (中期経営計画終了時)

グロスDEレシオ

企業の資金源泉のうち、有利子負債が株主資本の何倍に当たるかを示す指標で、一般にこの数値が1以下だと財務内容が健全とされる。

総還元性向

純利益のうち株主に配分した額がどの程度の割合かを示す指標

式) 総還元性向 = (配当総額 + 自社株買い総額) ÷ 税引後当期純利益

Appendix

参考資料

4. UTグループについて

会社概要

2020年2月1日現在

会社概要

商号	UTグループ株式会社
設立	2007年4月2日
資本金	6.8億円
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部（証券コード：2146）
代表者	代表取締役社長 兼 CEO 若山 陽一
所在地	東京都品川区東五反田1丁目11番15号

拠点



グループ会社

マニファクチャリング事業

UTエイム株式会社
総合製造派遣・請負

UTコミュニティ株式会社
総合製造派遣・請負

UTグローバル株式会社
外国人技能実習生管理代行

ソリューション事業

UTパベック株式会社
電池製造派遣・請負

UTHP株式会社
総合製造派遣・請負

FUJITSU UT株式会社
総合製造派遣・請負

エンジニアリング事業

UTテクノロジー株式会社
設計開発・ITエンジニア派遣・受託

UTコンストラクション株式会社
建設エンジニア派遣

株式会社レイハウオリ
Webサイト制作

その他の事業

UTエージェント株式会社
有料職業紹介事業

UTライフサポート株式会社
社内福利厚生事業

UTハートフル株式会社
特例子会社

4. UTグループについて

製造派遣分野のリーディングカンパニー

はたらく力で、イキイキをつくる。

創業以来、製造派遣業界では異例の無期雇用による人材派遣事業を展開。

はたらく人の立場に立ったさまざまな制度により

高い定着率を実現し、技術職社員数は過去最高を更新中。

2019年3月期

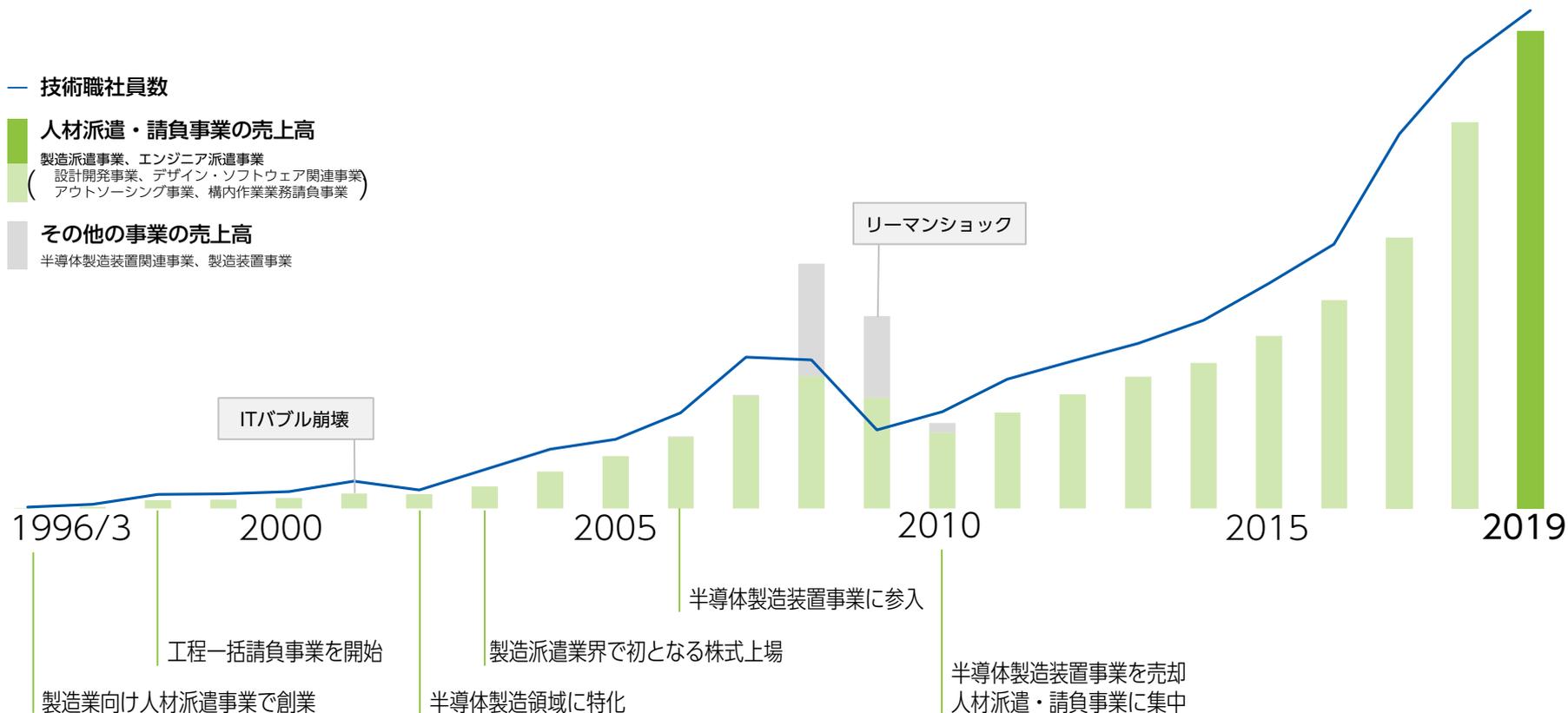
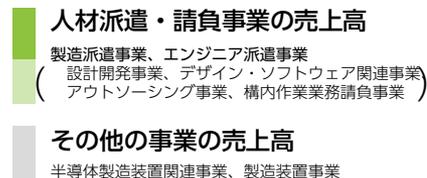
技術職社員数

20,583名

連結売上高

1,011億円

— 技術職社員数



4. UTグループについて

事業セグメント

マニュファクチャリング事業

生産工程向け人材サービス

748億円

74.1%

ソリューション事業

構造改革支援・BPOサービス

121億円

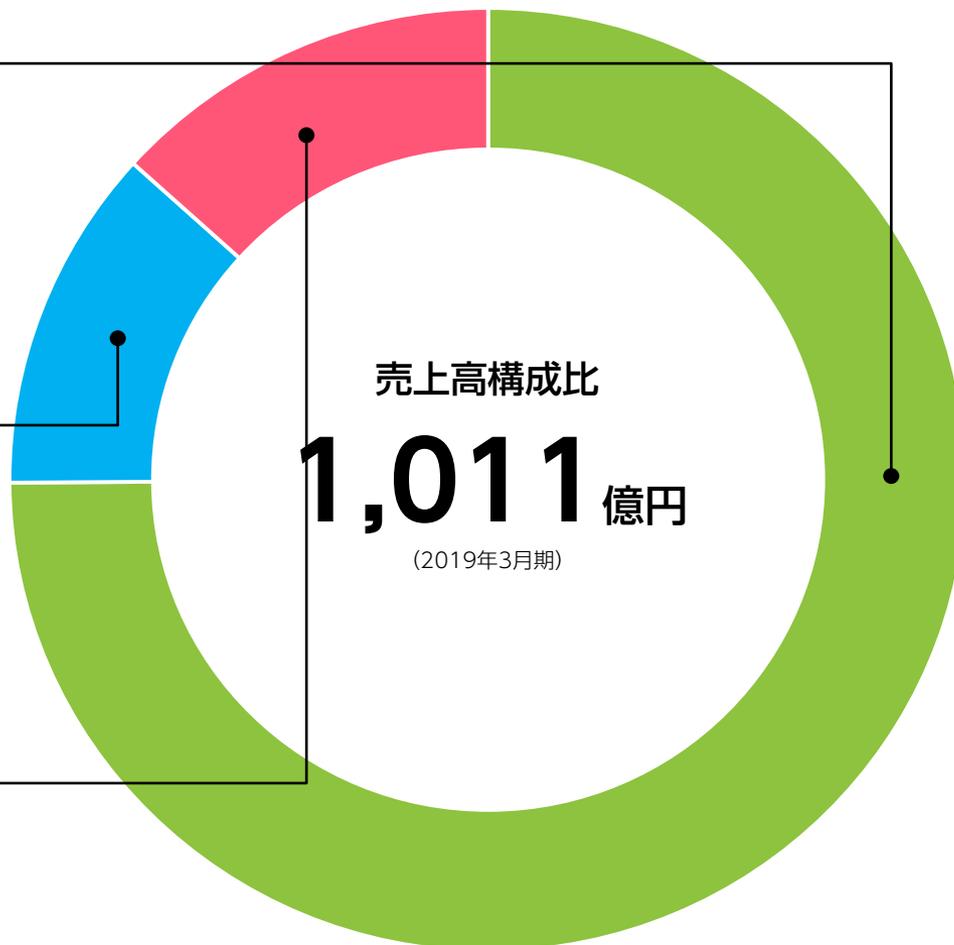
12.0%

エンジニアリング事業

設計・開発・ITエンジニア等の派遣

140億円

13.9%



UTグループのミッションと戦略

ミッション

「はたらく力で、イキイキをつくる。」

UTグループは、全てのはたらく人に
チャレンジする機会を与えます。

一人ひとりが高い目標を掲げ、
果敢に挑戦することが、
個々人の成長につながり、
喜びになると考えています。

私たちは、そのイキイキとした姿が、
あらゆるお客様の期待に応え、
日本の未来に貢献する力だと信じています。

「イキイキをつくる」戦略

安心・安定した雇用

- 正社員雇用（無期雇用派遣）
- 全国規模での社宅
- 充実した福利厚生



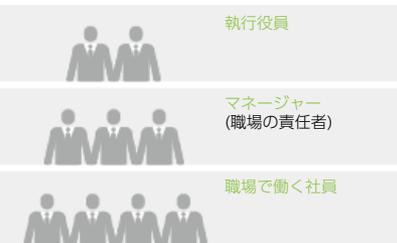
チーム派遣 キャリア形成支援

- 工程一括受託
- チームによる人材育成
- キャリアコンサルティング



教育・訓練と機会提供

- 役職員エントリー制度
- グループ内転職制度（One UT）
- エンジニア育成プログラム
- マネジメント研修

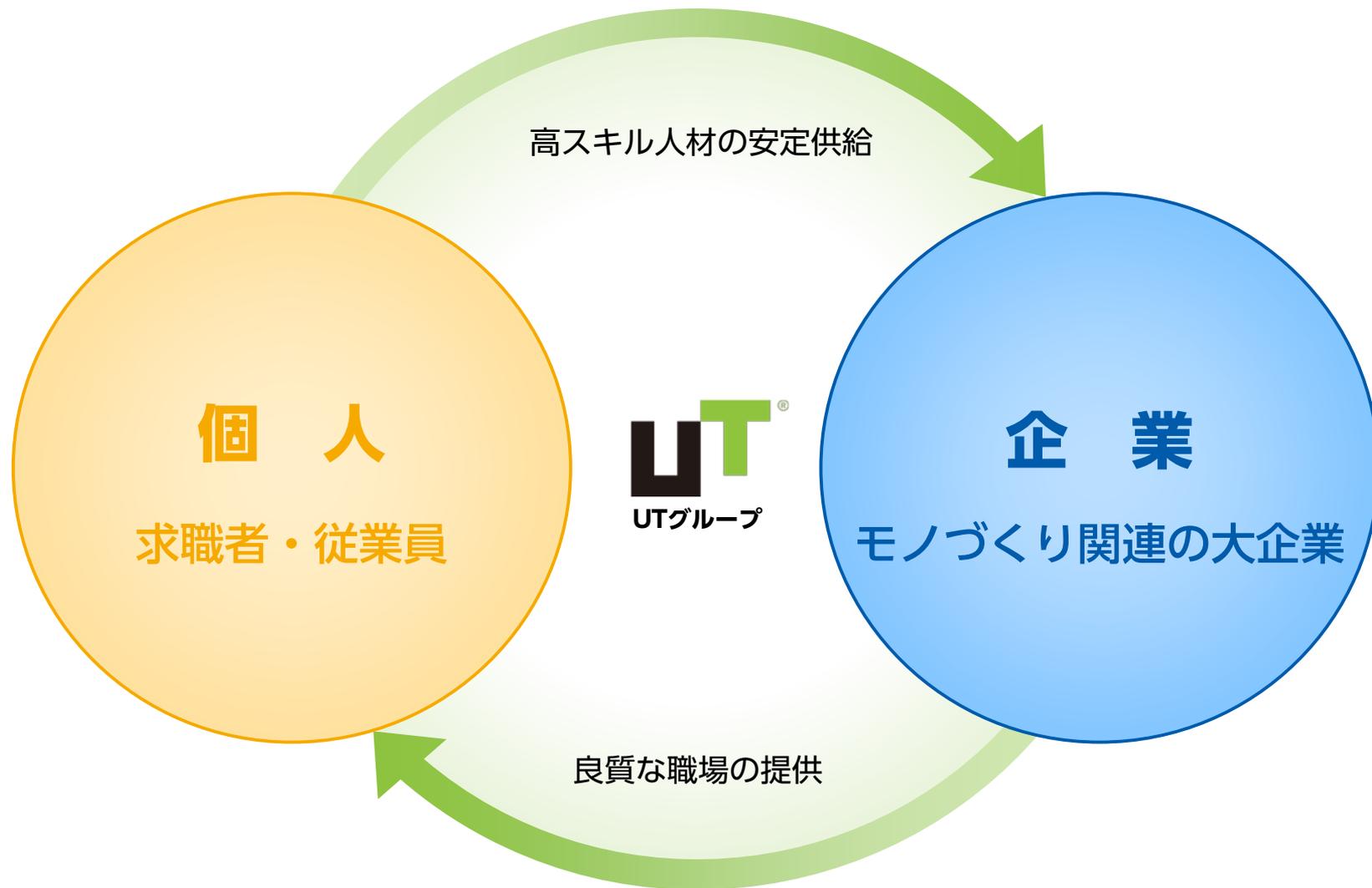


企業価値向上の 社員への成果配分

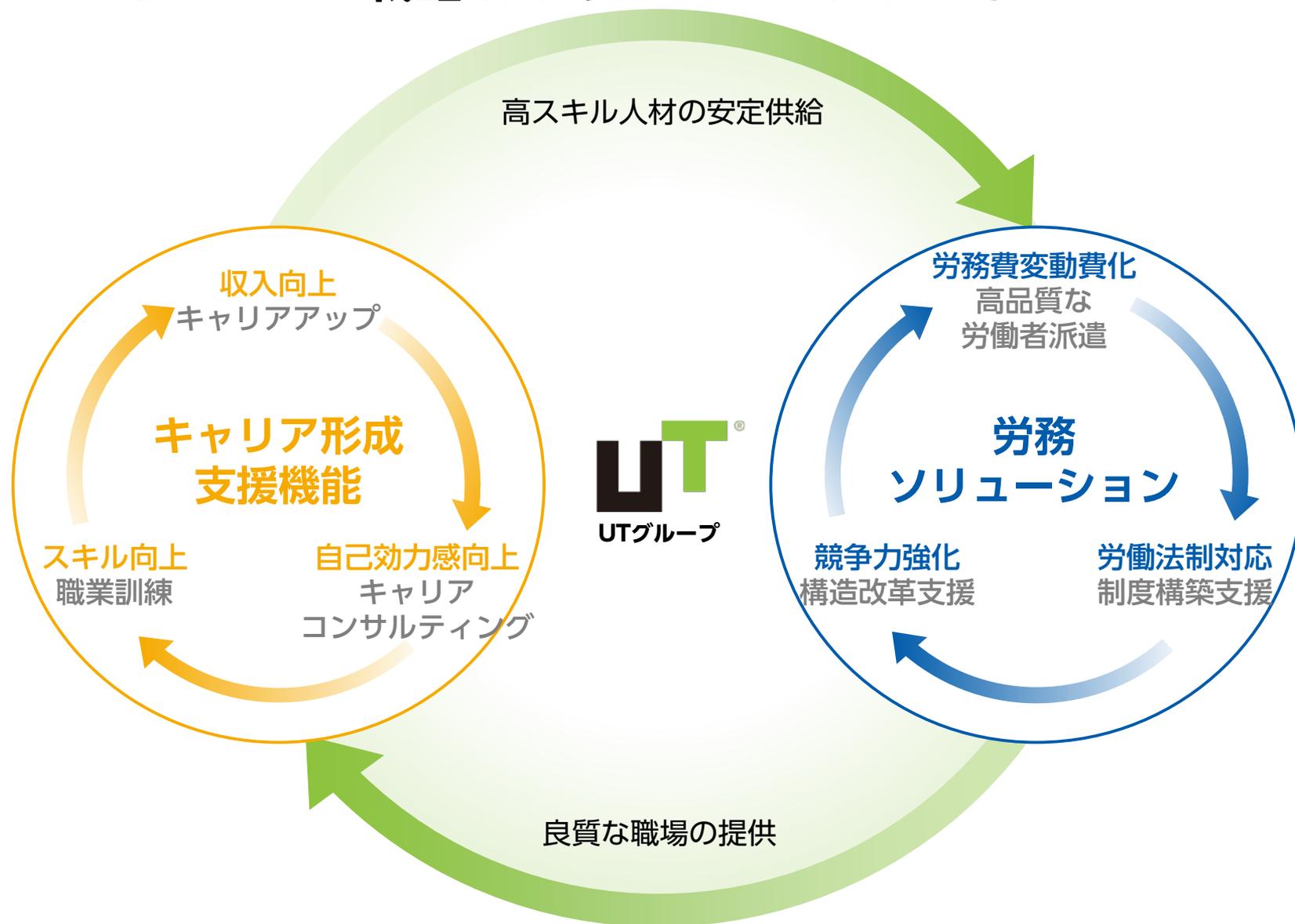
- 社員持株会制度



ツインカスタマー戦略とキャリアプラットフォーム



ツインカスタマー戦略とキャリアプラットフォーム



4. UTグループについて

株主還元方針

株主還元方針

当社グループは、『安定した財務基盤の確立と積極的な事業展開による高い成長を通じた持続的な企業価値の向上』を経営目標としており、中期経営計画において、グロスDEレシオ1.0以下（2021年3月期に実現）、EBITDA成長率30%以上（中期経営計画5カ年の平均成長率）をコミットメントとしております。

株主の皆様に対する利益還元も経営の重要課題と認識しており、**配当金および資本効率の向上に資する自己株式取得を通じて、総還元性向30%以上を基準**に、株価水準、事業環境等を総合的に判断して最適な株主還元を実施いたします。

総還元性向の推移

[千円]

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
当期純利益	1,497,496	2,033,027	3,534,596	4,968,446
配当総額	-	-	-	2,499,281
自己株式取得額	749,973	609,862	1,060,818	-
総還元性向	50.1%	30.0%	30.0%	50.3%

※2019年3月期は経営環境の変化等を勘案し特別配当を加えて全額を配当金による還元といたしました。

$$\text{総還元性向} = (\text{配当金} + \text{自己株式取得}) \div \text{当期純利益} \geq 30\%$$

配当金と自己株式取得は株価水準（PEGレシオ※）で判断

PEGレシオが1倍未満

自己株式取得による還元

PEGレシオが1倍以上～2倍未満

配当金と自己株式取得による還元

PEGレシオが2倍以上

配当金による還元

以上の基本方針をベースに総合的に判断し最適な株主還元を実施

※ PEGレシオ = 予想PER ÷ 年間EPS成長率

4. UTグループについて

業績推移

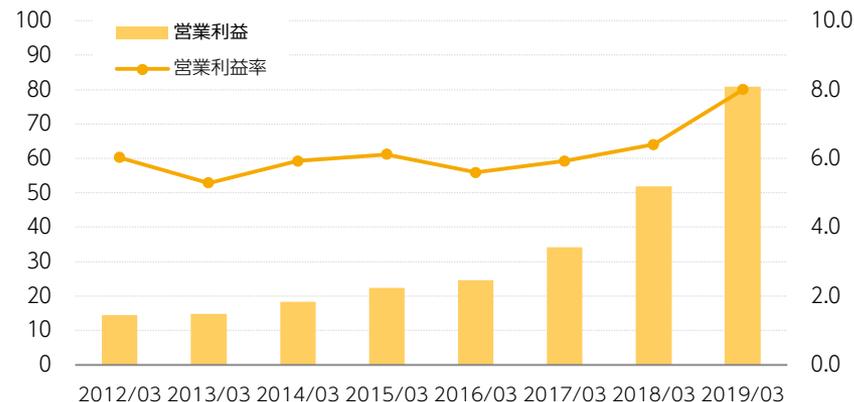
売上高

[億円]



営業利益 (左軸) / 営業利益率 (右軸)

[億円・%]



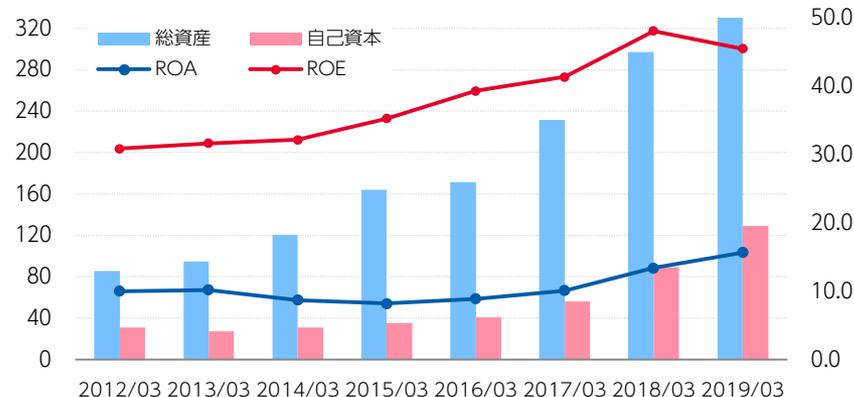
EPS・EPS成長率

[円・%]



総資産・自己資本 (左軸) / ROA・ROE (右軸)

[億円・%]



ROA=親会社株主に帰属する当期純利益/総資産 (期中平均)
ROE=親会社株主に帰属する当期純利益/株主資本 (期中平均)

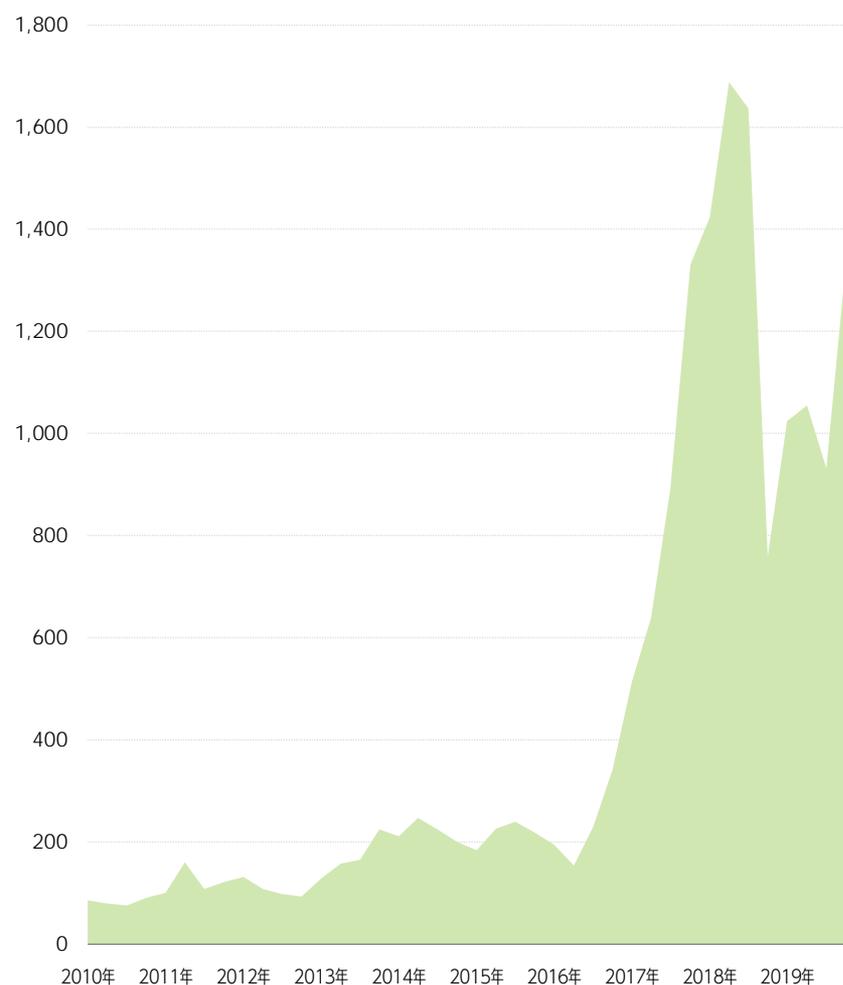
4. UTグループについて

株価の推移

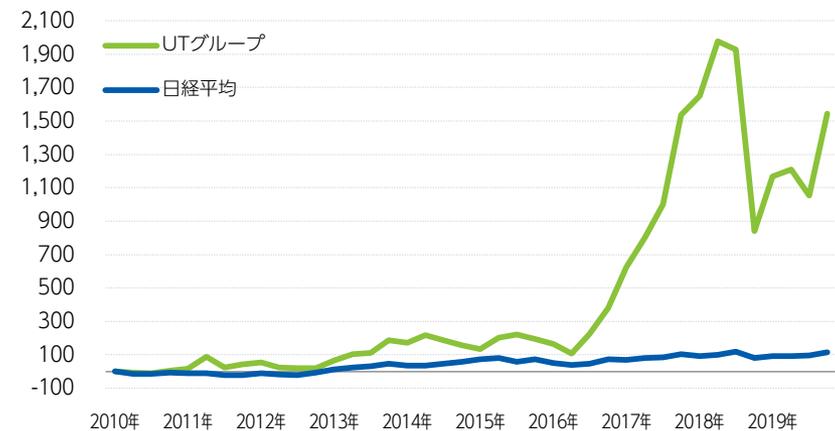
株価 (左軸) / 売買高 (右軸) [円/万株]



時価総額の推移 [億円]



株価の変動率 (2010年3月末比) [%]



はたらく力で、イキイキをつくる。



Upward Together

UTグループ株式会社

本資料に関する注意事項

本資料は、当社の事業計画の情報提供をするためのものです。本資料に記載された推測や業績予測等は、本資料作成時点における当社独自の判断に基づく計画値であります。また、今後の実際の業績などは、さまざまな要因によって予告なしに変更される場合や、異なる結果となる可能性があります。

お問合せ先

UTグループ株式会社 経営・人材管理部門
e-mail: ir@ut-g.co.jp